※令和３年度以前入学生用

学校番号	３００７

令和５年度　工業科（セラミック科）

教科	工業	科目	課題研究	単位数	３単位	年次	３年次
使用教科書							
副教材等	公益社団法人日本セラミックス協会／セラミック実習						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

3 年生の前半までに、いろいろなセラミックスの実習を体験し、いろいろな作業、測定、報告の基本を学びました。3 年生の後半からは、これらの中の代表的な実習を一つ選んで、自分なりの作品を作ります。

選択肢は四つあります。一つ目は、陶芸です。いろいろな陶芸技法を試み、オリジナルの作品を作ります。二つ目は宙吹きガラスです。実習で体験したときよりも、もっと大きく、凝った形の作品を作ります。三つめは、工芸です。主にガラスを使い、ステンドグラスやアクセサリーを作ります。四つめは情報技術です。プレゼンテーションソフトやアニメーションソフトを使って、文書や映像作品を作ります。

課題研究でどれをすることになるかは、10 月初旬ごろ、全ての実習を体験した後でアンケートを取って、みなさんの希望や就職先を考慮して決められます。課題研究の最後は、2 年生を招き、作った作品や作品を作る過程をみなさんに説明してもらいます。

2　学習の到達目標

自分の作品を作るためには、まず、これまでの経験を思い出し、原料準備から完成までの全ての過程をどのように進めて行くべきか、計画を立てなければなりません。作品作りは、計画する力を育てます。

今までよりも高度な作品を作るには、自分が今、どこまで理解し、どれだけの技能があるか知り、希望する作品を作るためには、あとどれだけのことを身につけなければならないか、どの部分を友人に手伝ってもらうべきか、想像できなければなりません。高度な作品にチャレンジすることは、自分自身を客観的に見る力や協力しあえる力を育てます。

自分のオリジナルの作品を作っても、それがどのような意味を持っているのか、自分自身で理解して、人に説明できなければ、他の人は、それのどこがあなたのオリジナルなのか分かってもらえません。作品作りの中で、人にわかってもらえるよう説明することは、作品の意味を自分で考え直し、そこから新たな工夫や創造を生み出す原動力になります。

これらの力を身につけることが、課題研究の目標です。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	これまでの自分を振り返り、自分で作りたいものを見つけ出す。	その作品をなぜそのように作ろうとしているのか説明できる。	自分で希望する作品を作るための計画を作り実行する。	材料の性質、装置の操作、作品の持つ意味を理解している。
評価方法	実現の可能性と制作時に必要な努力の釣り合いが取れている。	質問や確認の時に説明したり、そこから自分で考えたりしている。	作りたいものを説明し作るための手順や協力関係を作っている。	レポートや報告会で経過や結果を他の人に説明できる。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

※令和３年度以前入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	陶芸	・紐作りでの壺制作 ・電動ろくろを使って様々な作品の制作。 ・機械ろくろを使用した大皿作り ・発表会	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	a : いろいろな作品作りにチャレンジし、陶芸の可能性を探り、自分の作りたい作品のアイデアを貯めようとしているか。 b : 作品がどのようなもので、その作品が見た人に何を伝えようとしているのか、自分で説明できるか。 c : 必要な技能を習得しようと練習を重ね、完成までの作成計画を立てているか。 d : 制作の目的や意図を他者に説明し、理解を得て、技術的問題等を理解し、方針の確認や修正が出来るか。	安全確認や作業工程の遵守。 自分が考えていることを説明しようとする態度。 制作中の作品の経過や結果の報告。 レポートの内容。 発表会。
2	宙吹きガラス	・リンゴなどの塊 ・大小のコップ ・壺や皿、大きい物 ・取手がついた物 ・魚などの自由作品 ・色ガラスを使った作品 ・発表会	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	a : いろいろな作品作りにチャレンジし、ガラス成形の可能性を探り、自分の作りたい作品作りのアイデアを貯めようとしているか。 b : 作りたい作品がどのようなもので、その作品を見た人に何を伝えようとしているのか、自分で説明できるか。 c : 作品作りに必要な技能を習得しようと練習を重ねると同時に、作成計画を立てて、作成補助者の協力を得ているか。 d : 制作意図を他者に説明し、他者の反応を得て、作品の意味や技術的問題を理解し、方針の確認や修正が出来るか。	安全確認や作業の適切さ。 自分が考えていることを説明しようとする態度。 制作中の経過や結果の報告。 他者を意識した作品作り。 レポートの内容。 発表会。

※令和３年度以前入学生用

3	工芸ガラス	コールドワーク ・ステンドグラス ・サンドブラスト フュージョンワーク ・トンボ玉 ・キャスティング 発表会 ※ 卒業作品の技法は選択してもらいます。	 ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○	 ※ ※ ※ ※	○	a：これまでに実習で行ったコールドワークとフュージョンワークを思い出し、作品の構想を練ろうとしているか。 b：自分が作りたいものを形作るのは、どの技法が適しているか色々な技法で試作をしながら見つけようとしているか。 c：卒業制作に使用する作品技法を決め、その技法を使って作品を作る練習を真剣に重ね、また、友人からアドバイスをもらおうとしているか。 d：完成した作品の意図や、作品作りに苦労したところを人に伝えることができるか。	安全確認や作業の適切さ。 自分が考えていることを説明しようとする態度。 試作・制作の経過や結果の報告。 他者を意識した作品作り。 レポートの内容。 発表会。
4	情報	・表計算の応用 ・静止画の編集 ・動画の編集 ・３DCG の制作 ・CAD の基礎 ・イラスト基礎 ・ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ応用 ・発表会	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ◎ ◎ ◎	○ ○ ○ ○ ◎ ○ ○	◎ ◎ ◎ ○ ○ ○ ○	a：いろいろな課題に興味を持って積極的に取り組んでいるか。 b：明確な意図を持って人に伝わる作品を制作出来ているか c：制作に必要な基本知識と操作を習得しようと努めているか d：制作意図を他者に説明し、他者の反応を得て、作品の意味や技術的問題を理解し、方針の確認や修正が出来るか	自分が考えていることを説明しようとする態度。 制作試作の経過や結果の報告。 他者を意識した作品作り。 レポートの内容。 発表会。

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。